

令和5年度 自己評価書

令和6年3月25日

真庭市立久世保育園

園長 吉原 幹枝 印

1. 久世保育園の教育保育目標

児童福祉法に基づき保育を必要とするすべての子どもに対し、安心・安全な生活の場を保証し、保護者と共に子どもの最善の利益を考慮した保育を行う。

〈保育方針〉

「居心地の良い環境の中で育ち合う保育」

〈教育・保育目標〉

- いきいきと意欲をもった子ども
- 自分で考えて行動する子ども
- 友達と共に育ち合う子ども

2. 本年度の重点目標

本年度のテーマ

言葉で表現する力を育むための保育者の援助を探る

～心が動く遊びを通して～

〈重点目標〉

- 子どもが健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、自己を十分に発揮しながら活動できるようにすることにより、健全な心身の発達を図る。
- 養護と保育が一体となって豊かな人間性をもった子どもを育成する。
- 保こ小の連携をとりながら、スムーズな就学が迎えられるようにする。
- 安全安心の給食を提供すると共に食を通して豊かな心を育てるようにする。

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価
教育課程・指導計画	園の目標などは、年初めに話し合い、子どもの姿から育てたい事項を話し合い、指導計画に入れて取り組んだ。	3
行事	日本の大切な風習等で子ども達に経験させたいこと、感じて欲しいことなどを計画に取り入れて行った。	3
組織・運営	事務分掌に沿って、各々の職務を遂行している。行事や園内研修を含め、週2回の報告会をもち、報告連携を大切に行ってきた。	3
学級経営	子ども一人一人の発達を理解する為、観察、保護者との連携、環境作りを他のクラスと共有し、協力しながら行った。また、保護者ともこまめに相談をしながら、信頼関係を築いていった。	3
特別支援教育	集団でしか見ることができない姿を保護者や他のクラスと共有し、関係機関との連携をとりながら、子どもの成長を見守っていくようにした。	4
安全管理・保健指導	感染症については、感染対策をとりながら、できるだけ通常保育を行ってきた。午睡、食事中の安全や不審者対応についての研修も行い、保育中の安全について研修を行った。	4
研修（資質向上）	職員としての研修や保育についての様々な研修に参加した。参加者だけで完結しないで、園内で共有することで、知識だけでなく意識の向上、職種の理解にもつながった。	4
情報提供・保護者・地域との連携	各クラスのお知らせ、全体へのお知らせは配布物だけではなく、お知らせボード等を使い、写真やお知らせを掲示するようにした。地域との連携は薄くなっている分、HPなどを利用した地域への働きかけも必要であった。	3
小学校との接続・連携	就学に向けて、交流をしたり、小学校からの見学などにより、小学校生活を知ったり、子ども	3

	を理解してもらうことに繋がった。保護者にとっても不安を取り除くことで、スムーズな就学を迎えるための連携を取ることができた。	
子育て支援	送迎時の保護者との会話や懇談時の話から、保護者の子どもに対する思いを知り、一緒に考えたりした。地域に対しては、園庭開放日を設けたが、入園していたため、利用者はいなかった。一時保育可能となっても、園の状況から、受け入れが困難なことが多かった。	3
食育の推進（給食）	食育計画に基づき担任と調理員が連携をもち、食育活動を進めていくことができた。給食でも、季節や行事など感じられるように盛り付けをしたり、園内で栽培した野菜を調理して食べることができた。	4
食事の提供（調理）	真庭市の給食衛生管理の手引きに沿って衛生管理を徹底しながら調理をすることができた。異物混入なども起こすことなく、給食の提供ができた。また、食事の様子を見学したりし、献立や提供方法等を考えることに繋がった。	4

4. その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価

5. 本年度の重点目標及び総合的な評価結果の考察等

昨年度からの課題から、今年度は研究テーマでもある言葉で表現するための保育者の援助を探ることについて、園内研修、久世地区公立園との合同年齢別ワークショップを行う取り組みをした。子どもがわくわくドキドキしている時の子どもの表情や表現のありかたから、子どもが言葉で表現するにはどのような環境、援助が必要なのだろうかを理解する為に、子どもが発する言葉や表情、行動を観察し、援助をしていた。

研究を進めていくうちに保育者の子どもの表情を見つけることが増えていき、このような表情をもっとできるような保育を園全体でしていきたいと思うように変化していったことは今年度の取り組みとして良かった点である。

給食の提供については、毎日、写真を掲示し、興味をもって見てもらい、食への関心を促進することができた。

保護者アンケートから、園に対して保育者と子どもについて話しをすることができたという回答を多くいただいた。保護者による送迎だからこそ、顔を見ながら直接話すことができたり、掲示物を見ていただくことができる環境であったからだと考える。人とが会える保育園のような場所が共に子どもを育てていくための大切な場所と捉えることができた。

6. 評価結果を受けての具体的改善方策等

園全体で保育研修をすることで子どもへの理解の為の見取りの仕方は、身についてきているが、関わり方においては十分でない点があり、子どもの人権への配慮について研修を行い、関わり方を身につけていきたい。

保護者アンケートから、行事の際の参加人数についての提案もあったが、駐車場等狭くなっていたことや保育室の構造上、多くの方に入室していただくことができなかった。

子どもとゆとりをもって関わるために、事務作業等改善を進め、時間を有効に使うことができるように ICT の活用を進めていく。

(保護者アンケートの結果や園内職員で改善策を話し合ったことなど織り込んで記入する)

園評価基準

評価	基準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である